



## ひつじ書房の新しいラインアップ

日本の言語政策自体を問い直すための基本的な書籍、言語政策・言語教育政策を根本から考えるために必要な研究書など、日本語教育のための基礎的な本を刊行していきます。

刊行状況は小社HP([www.hituzi.co.jp](http://www.hituzi.co.jp))や、『月刊言語』や『日本語学』などの広告にてお知らせしています。また、〈ひつじかい〉にご加入(無料)いただくと最新の情報をメールでお届けいたします。入会方法は、小社HPをご覧ください。

## 言 語 政 策 ？

### 移動労働者とその家族のための言語政策

春原憲一郎編

A5判 予価 2000円 11月刊行予定

少子高齢化による労働力不足を補うため、外国人労働者の受け入れが進められつつある。これまで日本語教育は、もっとも先鋭的な現場のひとつとしてこの問題に対峙してきた。本書は、2007年3月に行われたシンポジウムでの研究発表および討論をもとに、ドイツ・韓国・オーストラリアにおける移民に対する言語政策を参照しつつ、現在、そしてこれから日本で生活する外国人のための言語政策・日本語教育のあり方を模索する。

### 「生活者としての外国人」と日本語教育政策

田尻英三編

A5判 予価 2000円 11月刊行予定

2006年に関係省庁の13の課長クラスが集まって外国人労働者問題関係省庁連絡会議が作られ、『「生活者としての外国人」に関する総合的対応策』が発表された。これ以降、日本に定住化しつつある外国人に対する国家レベルでの施策が次々と発表され、大きく事態が動きだしている。しかし、関係部署が多方面にわたるため、その全貌が見えにくい状況である。本書は、それらの施策を日本語教育政策の面から捉え、今後これらの政策がどのように進んでいくかを見極めようとするもの。そのため、関係各部署の施策を精査するだけでなく、これまでの日本語教育政策の流れや国際交流基金・日本経団連の動きも併せて追う。現在進行しつつある日本語教育政策の全体を見通すための1冊。

# 多文化社会？

## 多文化社会オーストラリアの言語教育政策

松田陽子著

A5判 予価 5000円 2009年12月刊行予定

本書では、多文化主義を標榜するオーストラリアにおける国家レベルの3つの言語政策とニューサウスウェールズ州の先住民言語政策について、言語教育に関する政策を中心に、社会・文化・心理の面から分析している。策定プロセスでは、決定機関のトップダウンの力だけでなく、コミュニティからのボトムアップの力やそれらをつなぐ媒介力の作用を考察し、政策の結果としては、初等・中等学校での多言語教育の推進によって教育現場に意図されなかった影響が及んでいる状況などを明らかにしている。

## マイノリティの名前はどのように扱われているのか(仮)

リリアン・テルミ・ハタノ著

A5判 予価 5000円 2009年12月刊行予定

日本の公立学校でブラジル人・ペルー人の子どもたちの名前はどのように扱われ、日本での暮らしは彼・彼女たちの「命名」にどんな影響を与えているのか。在日韓国・朝鮮人を苦悩させてきた問題がニューカマーにも生じている。在日外国人支援の市民活動に長年参加してきたブラジル人研究者によるフィールド調査報告を中心にまとめた本書は、外国籍・異文化背景の子どもたちを取り巻く諸問題の解決を目指す。名前をキーワードに、日本の公教育と日本社会の現状をあぶりだし、今後進むべき道を提案する。

## 複数の日本語(仮)

工藤真由美 他著

A5判 予価 8000円 12月刊行予定

本書は、大阪大学・21世紀COE「インターフェイスの人文学」を中心とする研究成果の一部であり、ブラジル日系・沖縄系移民社会における「日本語」の諸相について、言語接触の観点を重視した「複数の日本語」という視角から、考察を試みたもの。特に、沖縄系移民社会については、これまでほとんど調査研究がなされていなかった。第1部「言語の接触と混交」では、5年間に渡って調査研究に参加した5名が、調査研究によって浮かび上がった諸問題について検討を行っている。第2部「言語接触の実際」では、「ブラジル日系社会における談話」「ブラジル沖縄系移民社会における談話」の一部についてCD-R付きで紹介。

タイトルなど不確定な点もございます。すいませんが、あらかじめご了承下さい。

株式会社 ひつじ書房

営業  
三井まで

TEL 03-5319-4916  
FAX 03-5319-4917

〒112-0011 東京都文京区千石2-1-2 大和ビル2F

toiawase@  
hituzi.co.jp